



建物外観（撮影：藤井浩司）

建築概要

建設地：北海道札幌市中央区北 1 条西 9 丁目 1-5
 建築主：日本放送協会札幌拠点放送局
 設計：株式会社日建設計
 施工：大林・岩田地崎・
 田中特定建設工事共同企業体
 建築面積：6,997m²
 延床面積：27,512m²
 階数：地上 6 階、地下なし
 高さ：33.59m（鉄塔含む：104.81m）
 構造種別：鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

選評

南側が通称「メディアストリート」に面している NHK 札幌拠点放送会館は、その通りに面して雨や雪を遮る庇として機能する大きなオーバーハングが特徴である。メディアストリートでは他のほとんどの建物のファサードが通りに迫っていて、このセットバックの出現が通りの表情を親しみやすいものに大きく変貌させた。北側は北海道大学植物園への日影の影響を抑えるために階段状の断面構成としている。こうしたデザインは免震装置を利用することで合理的に成立可能となった。

免震層は、これまでに多くの施工実績のある天然ゴム系積層ゴム支承に弾性すべり支承とオイルダンパーを組み合わせたもので、中地震から大地震までの荷重レベルにも免震効果の高いものである。また、放送会館特有のスタジオを耐震コアにすることで、剛な上部構造とすることができ、免震効果を高めている。屋上の鉄塔については、雪が溜まりにくい整形な形状とし、吹込み防止の外装を設け、積雪寒冷地に相応しい工夫がある。

本会館は、実績豊富で信頼性の高い免震システムを使い、放送会館特有の架構特性を活用して、地域に開かれた広場空間を持つ、構造的にも明快なデザインを実現している。（三田 彰）

建築主：日本放送協会
 設計者：株式会社日建設計
 施工者：株式会社大林組

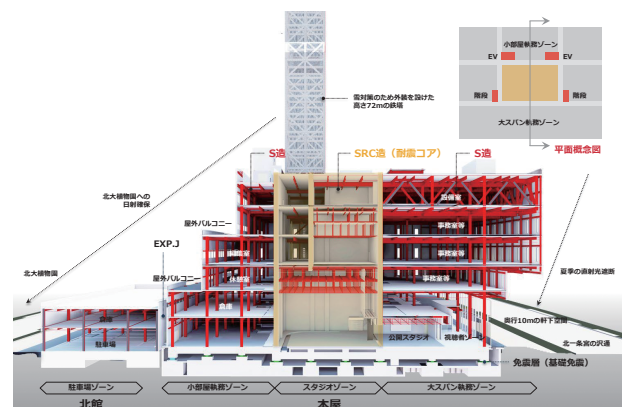
善林次男
 大友啓徳、寺田隆一、深井悟
 福澤範幸

免震・制振化した経緯及び企画設計等

旧会館の老朽化をふまえた建替えにより、NHK 北海道のキーステーションを建設する計画が立ち上がった。新会館では「如何なる時も公共放送としての使命を果たせる会館」に相応しい高い耐震性能の確保と、周辺環境と調和した放送会館の具現化が求められた。これに対し、スタジオの遮音機能を兼ねた剛強な SRC 造耐震コアと免震構造の組み合わせをベースに、敷地と環境に調和したランドマークとなりえるファサード（オーバーハング＋セットバック）を提案し、札幌の街に相応しい機能とデザインを兼ね備えた放送会館を実現した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

放送会館特有のスタジオを利用した耐震コアと免震構造の組み合わせは、剛な上部構造と柔な免震構造の組み合わせという理想的な構造システムである。耐震コアにより水平剛性を十分に確保し、更に免震層のフィルタリング効果を利用して効率的に鉄塔の応答低減を図ることで、大地震時の床応答加速度で 80gal 程度および鉄塔の最大層間変形角で 1/250 程度という極めて高い耐震性能を有する建物を完成させた。また、建物南側はオーバーハングさせて地域に開かれた会館を目指す一方、北側はセットバックさせることで隣接する植物園への日影や圧迫感軽減に最大限配慮した断面構成とした。鉄塔については、雪が溜まりにくい整形な形状とし、吹込み防止の外装を設け“積雪寒冷地に相応しいしつらえ”としている。免震構造の採用は設計与件であったが、免震構造の特性を活かすことで鉄塔を有する特徴的な形状の建物を合理的に成立させており、シンプルでのっぺりとした建物の多い雪国の街に一石を投じる構造デザインを実現した。



断面計画概要図